

次世代に希望をつなぐ福祉従事者

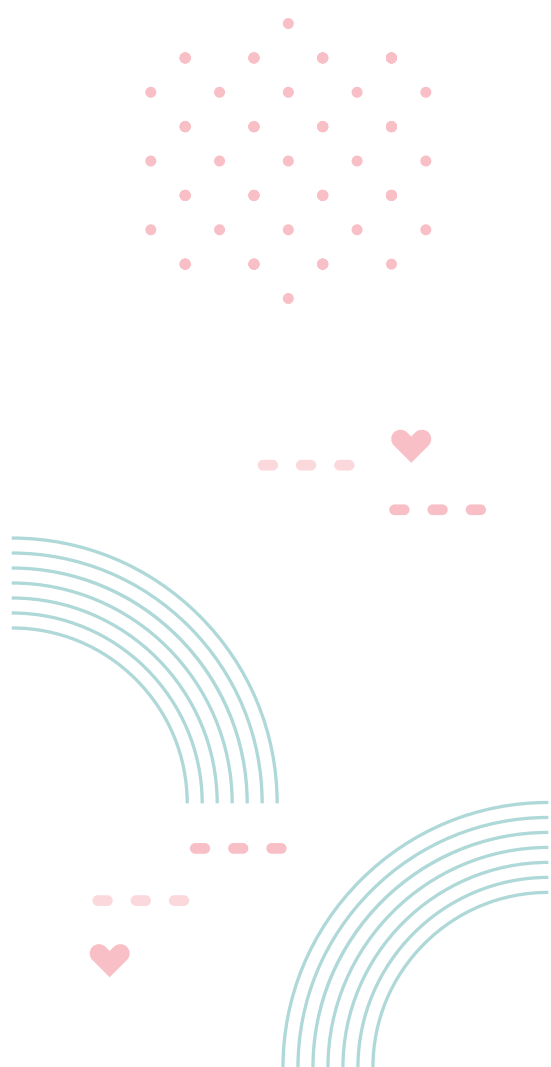
匿名希望

昨年の1月頃は、遠い国での新型のインフルエンザ程度の認識であった。それが、2年経った今に至るまで世界中に蔓延するなど想像にもしなかったことである。コロナの蔓延により私たちの生活は一変した。私たちのライフスタイルは様々な制約が生じた一方、リモートワーク、リモート会議が普及する契機にもなった。

しかしながら、介護事業所などの福祉従事者にとっては、一部の業務はリモート化できるものがあっても、最終的には高齢者と対面して支え合う仕事であり、社会を支えるエッセンシャルワーカーに普遍の事実である。特に、高齢者を対象とした介護事業所では、本県においても感染クラスターが発生し、介護従事者というだけで誹謗中傷の対象とされる事態も生じた。

そこで、私たちは目に見えないウイルスとの闘いの中で、福祉従事者の目に見えない日々の努力にも目を向けるべきである。何故なら、感染防止の配慮や

入所者家族との面会制限の葛藤などは、世間では表面化していない部分である。それは、渦中においては難しいことかも知れないが、コロナ禍を乗り越えた時には、福祉従事者がどのように困難を乗り越えていったかを次の世代へ繋いでいく必要がある。それは、希望を次の世代に継承していくことに繋がるものである。福祉従事者にはエールを送るとともに、そのような時が早く来ることを願って止まない。



何気ない日々の大切さ

匿名希望

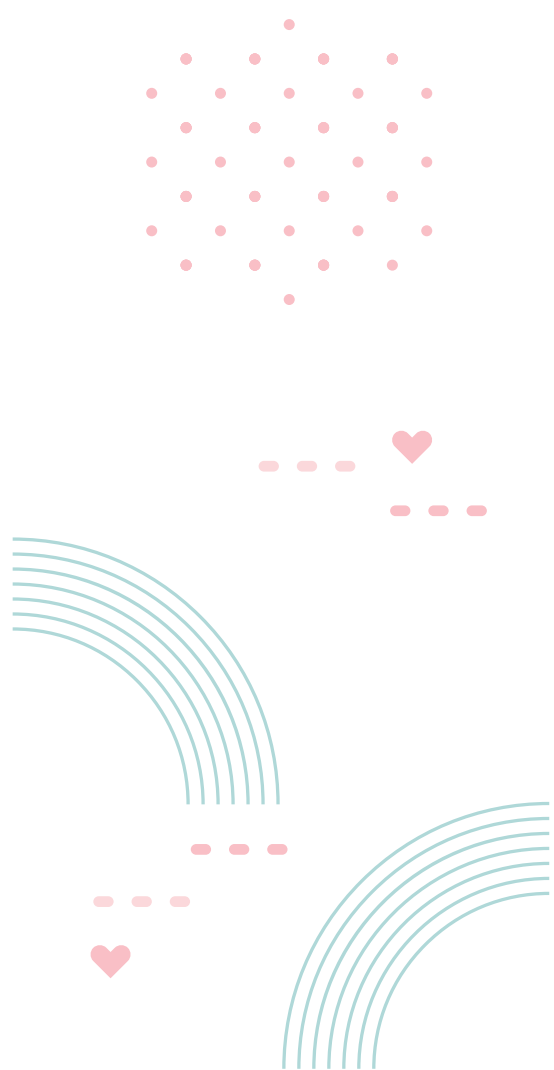
私のお婆の体験からです。私のお婆は長年夫婦仲睦まじく暮らしてきました。そのお婆の夫であるおじが体調を崩し、高齢者施設に入所することになりました。これまではゲートボールなどを趣味として元気に過ごす毎日でしたが、施設に入ってから、寝たり起きたりの生活によりベッド上で過ごすことが多くなりました。

これまでの生活と違い、最も困った点は、妻といえども直接の面会ができないことです。入所当初、面会はかろうじて許可されていましたが、その後は洗濯物の受け渡しなども職員を通じて行う有様となっていました。入所まもなくは会話もあり比較的元気だったおじも、タブレット越しでの面会は拒否するようになり、だんだん元気がなくなり、やがてこの春に亡くなりました。お婆は、「コロナが憎い」とこぼしていました。「私と会って話していると主人も元気だったのに！」とのことばが痛ましいです。

直接面会できない対応は、感染拡大を防ぐための

やむを得ない措置です。施設の従事者の方も家族や入所者の顔色を見て、会わせてあげたい気持ちと万一感染が広がったらどうしようという痛しかゆしの気持ちだったと思います。

マスクとフェイスシールドを付けた職員の方に介護をされる光景はコロナ禍前には想像すらできなかったと思います。今、このような状況で、介護という仕事に真摯に向き合い従事されている方に対して深い感謝の気持ちを話されていました。



感謝

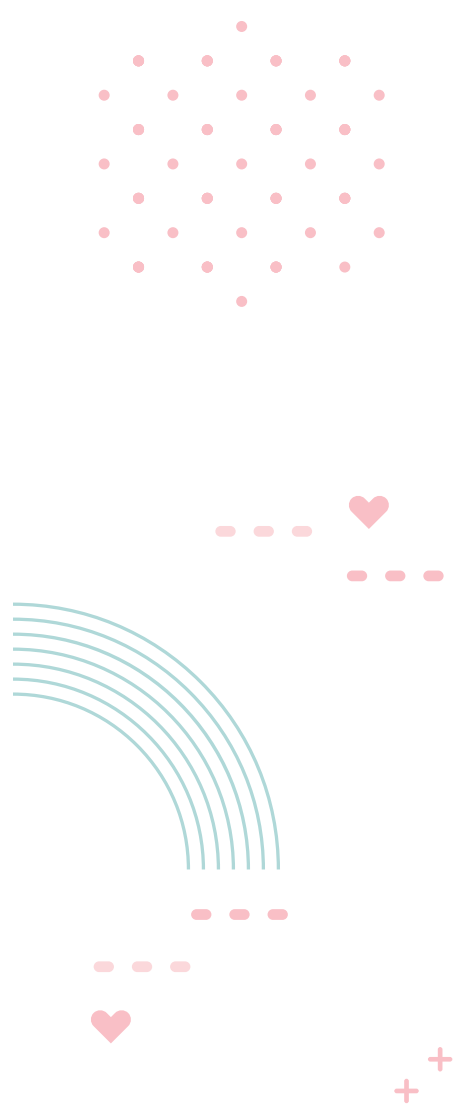
井上堯之

「ワクチン予約ちゃんとできたか？」

「ずっとマスク付けて、暑いやろうけど水分しっかり取っての。」

通所事業に協力いただいているボランティアの皆さんが、利用者の皆さんを気遣っている様子にいつもほっこりさせられます。コロナ禍で他人との接触機会を怖がるご時世の中、それでも社協活動に積極的に参画する元気なボランティアの皆さんの笑顔にいつも勇気をもらっています。

ボランティアの皆さん、本当にいつもありがとうございます！



F-3

給食サービスボランティアいずみの会

大道真知子

勝山地区社協では、食事作りの困難な高齢者の方に給食サービスを行っています。その中心になって活動頂いているいずみの会の活動をご紹介します。三十年以上にわたり週約六十食（月約二百四十食）の手作りのお弁当の献立から買い物、調理、仕分けまで担って頂き利用者の方から大変喜ばれていました。ところが、去年の四月から、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、手作りのお弁当が中止になり業者弁当に変更されても、いずみの会の皆さんは、お弁当の注文（ご飯の量、おかずのバランス等々）から配食して頂く民生委員の数のお弁当の仕分けまで、週一回活動して頂いています。

十月からは一年半ぶりに公民館の調理室が開放される事になり、衛生講習を受講したり、調理室の消毒清掃、献立作りに忙しい中、生き生きとしたいいずみの会の皆さんに感謝しながら、給食サービス事業を永く続けていきたいと思っています。

F-4

顔

ペンネーム はるえ

コロナ禍において、対策として外出行事や面会など様々なことが制限され、職員だけでなく入居者の方もつらい状況となっています。なかには職員にあたる方もいらつしやり、正直腹が立ってしまいます。

そんな中、誕生日・母の日・敬老の日、ほかにも何気ない日にベランダ越しやLINE電話での面会があり、普段は職員に依存している方や険しい表情をされる方が祖母の顔・母の顔に変わっていました。短時間の面会でもこの表情を引き出せる家族の絆を実感し、また改めて「私達は大事なご家族を任されているんだ」と気を引き締めることができました。皆様、お花に添えてある一言のメッセージカードでも喜ばれ、大切にされています。ご家族様もお忙しいと思いますが、お気軽に一言いただけると嬉しく思います。

デイサービス職員のプロ意識に感動と感謝！

ペンネーム
エメラルドサン

毎日、デイサービスの送迎車を見かけます。職員が笑顔で声をかけながら利用者の手を取って車に乗せたり、車イスを押したりと、以前から見慣れた風景です。ですが今では職員の顔にも利用者の顔にもマスクがつけられ、互いに手を消毒し、感染対策に注意を払っておられる様子がうかがわれます。マスクを着けていると、耳の遠い高齢者には聞こえずらく、なじみの職員なのか、笑顔なのかと利用者の不安げな様子も見られます。

デイサービス現場では、特に認知症の利用者には、背後から消毒スプレーをもってついて回っているらしく、感染対策の苦勞に頭が下がります。

実は、近所でコロナ感染者がたと聞きました。「ほんの少し会話をしただけなのに、自分も感染したのではないかと毎日眠れないぐらい不安だった。」と隣近所の方が話をされていました。

デイサービス職員も、きっと同じ思いでしょう。自分が感染しないだろうか、自分が人にうつさないだ

ろうかという不安の中で、利用者の前では平静を装い笑顔で対応しているプロ意識に感動し、さらに感謝の気持ちでいっぱいです。



想いに寄り添う福祉

ペンネーム ガーデン 春子

新型コロナウイルス感染の長期化により私達の高齢者施設でも感染防止対策中の為これまでの様な自由な交流が困難となり、入所者の方は家族との面会が出来ない日々が続き寂しい思いをされています。またご家族も同じ様に会えない事を我慢しながら家族の健康を願い私達に託して頂いています。その様な中でも、オンライン通話を活用する事でご家族と一緒にお盆の墓参りをされながら手を合わす事が出来たと喜ばれ感謝の言葉を頂いたり、元気な様子の写真や暑中見舞いのハガキが届きましたとご家族からお礼や職員への励ましのお手紙を頂くなどの交流が出来ました。

また、終末期の方がコロナ禍によりご家族との面会による直接のふれあいが出来ない事から在宅での看取りを希望され、その為にご家族と職員が一緒に考え、準備をする事で難しい看取りでの在宅復帰を実現する事が出来ました。

最後までお世話したいという職員の想いはありましたが、ご家族の安心された表情と何よりご本人様の「家や、良かった」の言葉を聞くことで良かったという想いになりました。今もその方の笑顔の写真はフロアのデスクトップ画面に残っています。

福祉施設では今も職員がコロナ感染防止の為、日々緊張感を持って仕事をしています。時には自分の楽しみを我慢しながら、それでも入所者の方々に少しでもご家族の代わりに寄り添い、安心した当たり前の暮らしが続く様にこれからも役割を果たしていきます。



オンラインにてご家族様と一緒に墓参りをしました。



自宅復帰おめでとうございます
。。.:。(' ヽ `。)ノ.:。
ご家族に会えてよかったですね。
退所前、職員との記念写真。

えちぜん福祉のチカラ 福祉現場にエールを

越前町社会福祉協議会

コロナ禍で活動が自粛傾向となっている中、越前町内でコロナに負けずに行われている活動やそれまでの活動を通作品を通して紹介しました。また頑張っている福祉活動者の皆さまにエールを送ろうと『応援メッセージ』を募集しました。

町内のさまざまな方たちから多くの作品やメッセージが集まり、ホームページや広報誌、動画でコロナ禍での活動を応援しました。

中でも織田中学校の当時1年生36名の生徒たちは、新型コロナウイルス感染症に対応する町内の福祉・医療関係者に感謝の気持ちを伝えようと『手づくりのランプシェード』『激励メッセージ動画』を作り、「少しでも笑顔や元気になる人が増えてほしい」という願いを込めて越前町社協を通じて町内の福祉・医療関係者、利用者の皆さんに心温まる“光”と“気持ち”を届けることができました。

コロナ禍でも自分たちでできることを考え、コロナに負けないよう活動や作品で応援し合う姿には元気をもらいました。



越前町で行われているさまざまな福祉活動を町内の団体やグループの活動や作品を通して紹介します。またコロナ禍の中でも頑張っている福祉活動者のみなさまにエールを送る『応援メッセージ』等の企画も用意しています。

越前町社会福祉協議会ホームページをぜひご覧ください。

QRコードからも越前町社協ホームページが見れます！

<https://www.e-shakyo.or.jp/>

公開中！

越前町社会福祉協議会



“願い”はひとつその日まで

宝珠苑

地域において新型コロナウイルスの感染者が確認されていても、私たち福祉従事者は、細心の感染対策を講じながら、高齢者を受け入れしたり、高齢者宅を訪問したりしています。

なぜなら、高齢者やそのご家族は、認知症の進行や家庭のご事情などにより、継続的あるいは一時的に福祉サービスの利用を望んでいるからです。加えて、私たち福祉従事者には、高齢者がその人らしく生きることにより添うとともに、周りにおられるご家族の生活をも支えるという責務があるのです。

コロナ禍において、私ども事業所内外における活動内容は一変しました。

例えば、敬老祝賀行事。これまでは、百寿や米寿など節目のご長寿をお迎えの場合、ご家族や地域のボランティアグループなどを招いた一大イベントとして開催していました。けれども今はありません。今年も、あらかじめ、ご家族からメッセージをお預かりし、職員が、節目のご長寿をお迎えの皆様やほ

かの利用者の前で代読しました。多くのご家族から、新型コロナウイルスの収束後、「一緒に外出して食事しようね」など、一日も早い普段の生活を望む声をいただきました。

新型コロナウイルスの収束は、日本のみならず世界中の人々の共通の“願い”です。私たち福祉従事者は県民の皆さんとともに、そのゴールを迎えるまで、全力で感染予防に取り組んでまいります。



コロナ禍においての家族とのつながり

あわらし市金津雲雀ヶ丘寮

娘が孫を連れて面会に来られ、「また来るね。」と手を振るそんな日常が続くと思っていたが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい出し家族との面会ができない日々が続いた為か、会話や笑顔が徐々に少なくなっていた。認知症が進行し、食事が食べられなくなった利用者様など様々な変化が見られた。

そこで少しでも元気な笑顔を取り戻してもらおうと、面会や行事をコロナ禍においても実現できることを試行錯誤しながら行ってみた。利用者様の様子を電話やメール、写真、手紙などで知らせる日々が一年以上続いた。しかし県からの要請があるたびに、面会方法を変更するなど、職員や家族にも混乱をきたしていた。

また、オンライン面会は、耳の遠い利用者様には不向きで、ご家族様からも直接顔が見たいという声も聞かれた。感染症に左右されることなく、窓越しでの面会ができるようハード面の体制を整え9月から実施した。

多くの課題があるなか、少しずつ利用者様の笑顔も見られ、ご家族様からも、直接顔を見て話せるようになりうれしいと安心された様子が多く伺えた。

ご家族様へのアンケート結果からも、「以前より元氣になっているように感じている。いつも感謝しています。」など多くの感謝の思いが綴られ、職員の励みになった。

